

放鳥トキの様子

1. 第6,7回放鳥トキの様子

トキの第6回放鳥については、6月8日から10日までの3日間で、13羽(10羽、3羽)のトキが順化ケージから飛翔し、放鳥から5ヶ月近く経過した現在、13羽中12羽が島内で確認されている(表1)。

初めての6月の放鳥だったが、放鳥後3ヶ月後の生存率が92.3%と過去6回の中で最高となった。最終的に13羽のうち8羽が他の1羽とともに野生復帰ステーションの比較的近くで新たな群れを形成したことも特徴的であった。

また、第6回放鳥では初めていしかわ動物園生まれの個体(No.109)が放鳥された。

表1 第6回放鳥個体の状況

番号	生まれ年	性別	系統	GPS	最近の行動
102	2008		G		単独行動(新穂・両津地区)
104	2009		F		6/19に新穂地区でGPS情報が得られた後、確認情報なし
105	2010		P		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
106	2010		P		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
107	2010		M		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
108	2010		U		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
109	2010		X		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
110	2010		U		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
111	2010		W		新たな群れを形成して行動(新穂地区)
112	2010		E		単独行動(両津地区(前浜地域))
113	2011		T		既存の群れに合流(新穂・両津・金井地区)
114	2011		T		既存の群れに合流(新穂・両津・金井地区)
115	2011		A D		新たな群れを形成して行動(新穂地区)

(網掛けは3ヶ月以上未確認の個体)

No.109:いしかわ動物園生まれ



木にとまる#106,111,120,130,131,132



飛翔する幼鳥4羽と成鳥3羽

第7回放鳥については、9月28日から10月1日までの4日間で、17羽（3羽、14羽）のトキが順化ケージから飛翔し、放鳥から1ヶ月以上経過した現在、17羽中12羽が島内で確認されている（表2）。うち6羽はすでに既存の群れに合流していることが確認されている。

2012年1月に猛禽類に襲われて負傷・収容され、回復後再放鳥されたNo.18は放鳥後3日目に収容前に属していた群れに合流した。また、今回の放鳥では2007年に中国から供与された華陽（ホアヤン）の系統個体（No.117,124）や、育雛時から意識的に人の接触が多い環境で育てられた個体（No.122）、出雲市トキ分散飼育センター生まれの個体（No.128,131,132,134）が初めて放鳥された。

表2 第7回放鳥個体の状況

番号	生まれ年	性別	系統	GPS	最近の行動
18	2005		E		既存の群れに合流（新穂・両津・金井地区）
54	2009		I		No.129と2羽で行動（両津地区（前浜地域））
117	2010		Y		10/17に両津地区（前浜地域）でGPS情報が得られた後、確認情報なし
118	2010		P		9/29に新穂地区で確認された後、確認情報なし
119	2010		I		10/2に真野地区で確認された後、確認情報なし
120	2010		I		既存の群れに合流（新穂地区）
121	2010		E		既存の群れ近くで行動（真野・畑野地区）
122	2010		S		既存の群れに合流（新穂地区）
123	2010		X		10/1に新穂地区で確認された後、確認情報なし
124	2010		Y		既存の群れの近くで行動（両津地区）
125	2009		G		既存の群れの近くで行動（両津地区）
128	2011		N		9/30に新穂地区で確認された後、確認情報なし
129	2011		I		No.54と2羽で行動（両津地区（前浜地域））
130	2011		I		既存の群れに合流（新穂地区）
131	2011		N		既存の群れの近くで行動（新穂地区）
132	2011		A F		既存の群れに合流（新穂地区）
134	2011		A F		既存の群れに合流（新穂・両津・金井地区）

（網掛けは半月以上未確認の個体）

No.18:第2回放鳥で放鳥され2012.1.9猛禽に襲われ負傷し収容された / No.54:第3回放鳥で3ヶ月訓練を受けたものの、放鳥扉開放後6日間飛び立たず結局ケガのため順化ケージ内で収容された / No.117,124:華陽（ホアヤン）の系統 / No.122:育雛時から意識的に人の接触が多い環境で育てられた / No.119,120,123,129,130:いしかわ動物園生まれ / No.128,131,132,134:出雲市トキ分散飼育センター生まれ

第7回放鳥の生存率や放鳥後の動きについては、まだこれから明らかになる部分があるため、今後の状況を把握した上で評価をすることとする。

なお、過去の放鳥結果について表3にまとめた。第4回以降の放鳥個体で本州へ渡った個体は確認されていない。

表3 過去の放鳥結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	計
放鳥開始日	2008.9.25	2009.9.29	2010.11.1	2011.3.10	2011.9.27	2012.6.8	2012.9.28	
所要日数(日)	1	5	6	4	2	3	4	
リリース方式	ハード	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	
放鳥数(羽)	10	19	13	18	18	13	17	108
オス	5	8	8	10	11	10	3	55
メス	5	11	5	8	7	3	14	53
訓練期間(月)	7~14	0~8	3	3	3	3	3	
生存率 %	3ヶ月後	80.0	73.7	55.6	66.7	88.9	92.3	-
	1年後	70.0	63.2	44.4	66.7	77.8	-	-
	2年後	50.0	52.6	33.3	-	-	-	-
	3年後	40.0	31.6	-	-	-	-	-
	4年後	40.0	-	-	-	-	-	-
本州飛来(羽)	4	3	2	0	0	0	0	9

第3回放鳥の生存率は放鳥時0歳の個体4羽を除いて計算

2. 放鳥トキの確認状況

現在生存していると考えられている個体数は幼鳥8羽を含めて77羽(表4)。

今年野生下で誕生したトキは生後半年近く経過しているが、8羽とも生存が確認されており、すでに自立し、島内の群れの中で生活している。10月中旬には羽茂地区で誕生した幼鳥3羽のうち1羽が移動し、真野・畑野地区の群れに合流していることが確認された。

表4 野生下のトキの個体数(2012年11月5日現在)

放鳥数	108
生存扱い	生存確認 68
	2ヶ月以上未確認 1
行方不明扱い(6ヶ月以上未確認)	5
死亡扱い(12ヶ月以上未確認)	28
死亡(死体確認)	4
保護・収容	2
野生下で誕生したトキ(2012年)	8
	生存確認 8

各生息範囲内における個体構成を表5に示した。現在佐渡島内で確認されているのは、幼鳥8羽を含め75羽程度。第6、7回放鳥個体が群れに合流するなどし、新穂・両津・金井地区で幼鳥5羽を含む最大43羽が生息しているほか、真野・畑野・佐和田地区で幼鳥1羽を含む最大11羽、羽茂地区で幼鳥2羽を含む最大13羽の群れが形成されている。また、両津地区（前浜地域）で3羽以上が確認されている。

本州では引き続き富山県黒部市の1羽（No.04/ ）のみが確認されている。

表5 各生息範囲内における個体構成

群れ	オス					メス					個体数
新穂・両津・金井地区	608	423	550	367	276	621	425	426	280	393	43羽
	385	387	391	392	298	295	297	1113	1114	1115	
	388	4102	2105	2106	2107	718	2120	2122	1130	1131	
	2108	2109	2110	2111	2124	1132	1134				
	3125										
	幼鳥5羽										
両津地区（前浜地域）	2112					354	1129				3羽
真野・畑野・佐和田地区	433	368	372	374	581	538	366	278	296	2121	11羽
	幼鳥1羽										
羽茂地区	606	611	548	371	373	703	369	279			13羽
	384	386	390								
	幼鳥2羽										
居場所不明	2117					2118	2119	2123	1128		5羽
本州						704					1羽
合計	36羽					32羽					76羽

（個体番号の左下に年齢を記載。下線はGPS送信器装着個体を示す）
表には2ヶ月以上未確認の個体は含めていない。

最近見られた特殊な利用環境として、ダム湖上流の河原（1羽、10月中旬）、ため池の池畔（最大7羽、10月中旬）、川沿いの広い排水路内（最大12羽、9～10月）などの利用が確認された。



ため池の池畔で休憩する群れ



排水路内で探餌する群れ

3. 繁殖期に向けた島内個体の状況

繁殖期を前にした野生下個体群の全体の雌雄バランス、年齢構成については表5,6のとおり。オス3羽、メス14羽を放鳥した第7回放鳥を終え、野生下の個体群の性比の不均衡が大きく是正された。ただし依然としてオスが数羽多い状態となっており、完全に1:1とはなっていない。島内の個体群は、2~3歳の個体が多く、0~7歳までの個体が含まれている。

表6 現在確認できている個体の年齢構成

生まれ年	羽数	オス	メス	(本州)
2005年(7歳)	3羽		03 18	04()
2006年(6歳)	4羽	<u>06</u> 08 <u>11</u>	21	
2007年(5歳)	4羽	<u>48</u> 50 <u>81</u>	38	
2008年(4歳)	5羽	23 33 <u>102</u>	25 <u>26</u>	
2009年(3歳)	19羽	67 <u>68</u> 71 72 73 74 66 69 93 54 84 85 <u>86</u> 87 <u>88</u> <u>90</u> 91 92 <u>125</u>		
2010年(2歳)	24羽	76 98 <u>105</u> 106 107 108 78 79 80 95 96 97 109 110 111 112 <u>117</u> <u>124</u>	118 119 120 121 122 123	
2011年(1歳)	9羽		113 114 115 128 129 130 131 132 134	
2012年(0歳)	8羽	幼鳥8羽(うち1羽はメス)		
合計	76羽	36羽	31羽	1羽

(下線はGPS送信器装着個体を示す)

表には2ヶ月以上未確認となっている個体は含めていない。

表6のとおり、第6回、第7回放鳥で1~2歳個体が多く放鳥され、島内個体群において、来年2歳以上の繁殖年齢を迎える個体が大幅に増加している。今年ペアを形成した個体もほとんどが生存しており、繁殖期を迎える個体数に大幅な増加が見込める(表7)ことから、来年の繁殖期においてはペア数もさらに増加すると考えられる。

表7 繁殖期における島内個体数とペア形成数

	2009	2010	2011	2012	2013
繁殖期(3/1時点)における島内個体数	5	17	19	41	(75)
ペア形成数	0	6	7	18	-

2013年の島内個体数は2012年11月現在の数